



2013-2014 役員

会 長 / 小林 秋生 副 会 長 / 渡辺 文夫
幹 事 / 清水 良英 広報・情報委員長 / 矢島 栄一



点鐘	小林 秋生 会長
SAA	黒澤 明男 委員
ソング	我らの生業

【会長挨拶】 小林 秋生 会長

3月も、半ばを過ぎて、ようやく春らしい気温も感じるようになりました。

先月半ばのドカ雪も、ほとんど消えたようですが、例年ならとうに開花を見る庭の福寿草がまだこれからようであります。

不覚にも先月の大雪のとき引いてしまった風邪が原因で喉(のど)が潰れて声が出ませんでした。例会でもまともな挨拶も出来ず、申し訳ありませんでした。先週仕事でベトナムへ行ってきましたが、ここでようよう何とか声が出るように治りました。

ベトナムのハノイは今、春の雨期でありまして、この3月中、昼も夜も雨が止みません。湿度 80%、気温は夜 15°～16°、昼 23°～24°で暑くはないのですが、昼は霧雨、夜はシトシトと止まずに降り続いております。3月の終りまで降り続くそうです。

私は、この加湿器のような中に数日過したお陰で喉が治りました。そのあと、南方のホーチミンにも移動をしたのですが、こちらは連日 35°～36°の猛暑の晴天でありました。赤道に近く北緯 11°、日本と同じ細長い国で、天候が全々違います。

さて、先々週、ソフトパワーについてのお話を申し上げましたが、今回ベトナムでもそのことについて感じて参りました。

先週の日よう日の9日、ホーチミンから北方へ約 40 km ぐらいのところにくチトンネルと云う観光の名所になっているところへ行ってきました。ここは、あのベトナム戦争でアメリカ軍が最後まで落せず、米軍敗退の要因ともなった、ベトコンゲリラの激戦の地であります。もとはこの地方の農民であります。上陸で攻撃をかけて来たアメリカ軍に抵抗したゲリラ軍であります。

大きく分けて 3～4ヶ所の部隊があるようですが、幾千と云うゲリラ兵は四つんばいで這い歩くトンネル通路で地下にもぐり、生活をしながら戦いを続け、大変奇抜な戦法でアメリカ軍に抵抗を致しました。一時はサイゴンを制圧したアメリカ軍でありましたが、対ゲリラ軍との泥沼化と北軍の優勢に押され

て、敗退となった訳であります。

終戦から四十数年が経ちますが、今回、この戦争を経験した人たちにお話しを聞く機会がありました。私と同年代で、20才代で戦争をした人々です。「戦争が終って、今、平和の歩みを続けている事が、本当に嬉しい」と云っておりました。今、経済的にも発展途上にあることは日本のお陰とも云っておりました。終戦を経験して素晴らしい復活を遂げた日本のようになりたいと云う、ここでも日本のソフトパワーを感じた次第であります。以上今週のご挨拶と致します。

【幹事報告】 清水 良英 幹事

1. 例会変更

丸子RC

3月27日(木) 夜間例会の為
定刻受付あり

上田六文銭RC

4月29日(火) 法定休日の為休会
定刻受付なし

5月6日(火) 法定休日の為休会
定刻受付なし

2. 週報

東御RC

例会終了後理事会

本日の配布物

週報 1221号

委員会報告

小林秋生会長

～「親睦そば会」のお知らせ～

ラッキー賞

NO.5 矢島 栄一 君

小林秋生君	大雪で延期になっていた親睦そば会を4月15日に開催します。多数のご参加をお待ち致します
黒田説成君	卓話させていただきます。よろしく
矢島栄一君	久しぶりのラッキー賞をいただきありがとうございました。明日は子供の中学校卒業式です。

橋詰希望君	3月17日結婚記念日祝いのお花ありがとうございました。4月の卓話をしてくださる方、受け付けています。よろしく
神津恭通君	先週は、手術後3ヵ月検診のため休会致しました。リハビリを一生懸命やらなかったため、退院時より検査の数字が良くありませんでした。

次週のプログラム：ロータリアンのインターネット活用術 / 次々週のプログラム：雑誌月間によせて

【出席報告】 橋詰 希望 委員長

	会員数	出席	M・U	欠席	出席率
本日 3月18日	24	22	事前0名	2	91.30%
前々回 3月4日	24	19	事後1名	5	77.27%

【本日のプログラム】 『お彼岸について』



【講師】 黒田説成会員（浄土宗光岳寺住職）

暑さ寒さも彼岸までとだんだん暖かさが続くようになり、今日から7日間は彼岸です。彼岸とは、向こう岸という意味でありつまりは仏の世界のことで、それに対し戦争や災害など苦しいことの多い私たちのいる世界を「こちら側の世界」此岸と言います。いわば、釈尊は此岸から彼岸へ行くには、人間としてどのような生活をすれば良いか、この「人間らしさ」ということを教えています。

仏教の行事と言えば、その多くはインドや中国を起源として行なわれるようになったものですが、春と秋に行われる彼岸は日本特有の行事で、由来ははっきりしませんが始まりはおおよそ1400年前の聖徳太子の頃、春と秋に7日間の法要を務めたとの記録があります。それにしても、一年間に同じ行事が二度もあるのは世界に例を見ません。

仏教がそうであったように、彼岸も朝廷で行われていたもので、それが庶民に広まったのは江戸時代になってからのようです。

彼岸は春分と秋分を中日(ちゅうにち)とし、この日は太陽が真西に沈む日とその西方に向かって手を合わせ、極楽浄土を想う日としています。このことが、大きく関係する教えが経典にあります。浄土宗のよりどころとする浄土教の「日想観」というのがそれです。つまり太陽が沈む方向に極楽浄

土を想いなさいというものです。太陽を通じて仏を念ずる行が説かれています。

善導大師という法然上人の師僧は、弥陀の極楽世界は陽の没する西方にあり昼夜の長さが同じ春分、秋分の日西方に向かって合掌すれば、浄土に往生できると説いています。

彼岸でもう一つ大事なことは、中日を挟んで前後に3日間に実践すべき六つの行いがあります。それを示した六波羅蜜(ろくはらみつ)という教えがあります。いわば、彼の岸にいたる六つの教えです。

- 布施(ふせ) 人のためになる行ないをする
- 持戒(じかい) 決まりを守る、厳しさを持つ
- 忍辱(にんにく) つらいことも我慢する
- 精進(しょうじん) 目標に向かって努力する
- 禅定(ぜんじょう) 心静かに保つ
- 智慧(ちえ) 自らを省みて正すべきはただす

ロータリーの目的は、意義のある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。「四つのテスト」について、父と言われる J. テラーさんは、仲間4人に「四つのテスト」に自分の信じている宗教の教義や理念に反するものがあるかどうか聞いてみると、全員が同じだったのは真実、公平、友愛、そしてみんなのためになること…で、これを常に実務の場で用いるとすればさらに大きな成功と発展をもたらすことになるだろうと結んでいる。